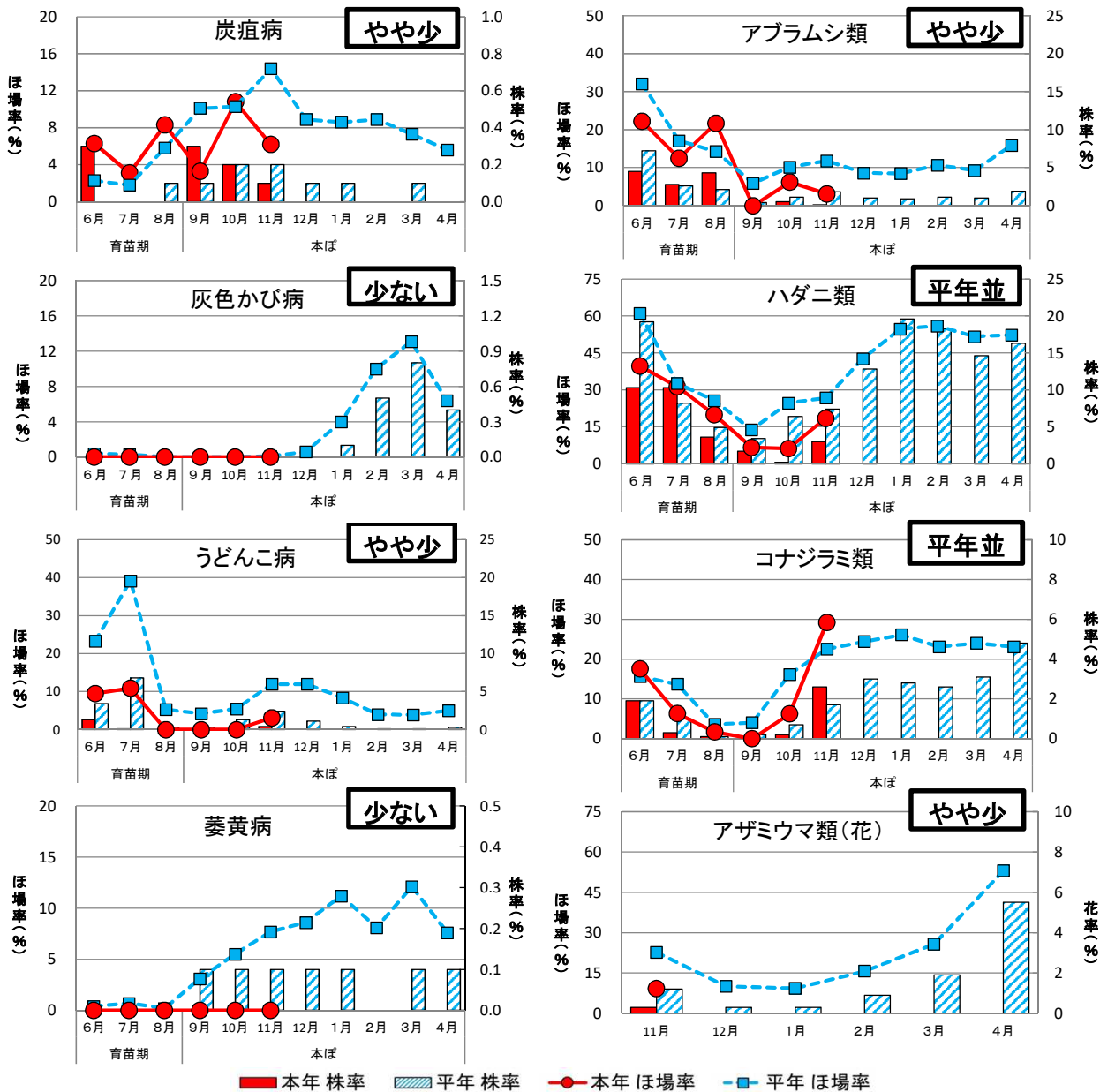


# いちご病害虫情報第6号 (11月)

令和4(2022)年11月18日  
栃木県農業環境指導センター

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%) : 発生株数 / 調査ほ場数 × 25株 ※ほ場率(%) : 発生が確認されたほ場数 / 調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### ー アザミウマ類の対策 ー

飛び込みが見られたら、低密度のうちに防除を徹底しましょう。

1. 低密度のうちにミツバチや天敵への影響が少ないカウンター乳剤(I:15)等のIGR剤を散布する。
2. 花を良く観察して、観察した花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合は、スピノエース顆粒水和剤(I:5)等を散布する。
3. 10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、秋期のアザミウマ類の飛び込みが多くなる傾向にあり、翌年春以降の発生につながるおそれがあるので、防除を徹底する。

## ■ 今月のトピックス コナジラミ類

コナジラミ類は成虫の体長が1～2mm程の小さな虫で、いちごではオンシツコナジラミが主要種ですが、タバココナジラミが発生することもあります。

コナジラミ類による主な被害は、吸汁加害による生育不良です。他の野菜類では、ウイルス病を媒介して間接的に被害を与えることもありますが、いちごでは今のところウイルス伝搬の報告はありません。

### 防除対策について

多発生してからでは防除が困難なため、初期防除を徹底しましょう。

1. 施設内外の除草を徹底する。いちご以外の野菜、花き類はハウス内に持ち込まない。
2. 幼虫は葉裏に寄生するため、薬剤散布は葉裏にもよくかかるように行う。
3. 同系統薬剤の連用は薬剤抵抗性発達の原因となるので、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
4. 同じ薬剤でもオンシツコナジラミとタバココナジラミとでは薬剤感受性の異なる場合があるため、発生種を正確に判別することが重要である。
5. 栽培終了時にはハウスの蒸し込みを行い、害虫を外に出さないようにする。



写真1 オンシツコナジラミ成虫  
(翅の隙間が閉じて見える)



写真2 オンシツコナジラミ蛹  
(白色で厚みのある小判型)



写真3 タバココナジラミ成虫  
(翅の隙間が空いて見える)



写真4 タバココナジラミ蛹  
(黄色で厚みがなく扁平)